

— 栄える会合同支部例会 —

宇宙に“感謝”の量をふやしたい！

7月7日（土）午後1時20分～4時40分



真理講話

生長の家栄える会

神谷 光徳 名誉会長



感動プロデューサー・映画監督

講話：入江 富美子

ドキュメンタリー映画

映画上映：1/4の奇跡
～本当のことだから～

場 所：生長の家大阪教化部3F
大阪市天王寺区上本町5-6-15

奉納金：1,000円以上（会員・前納の場合は200円助成いたします）



問い合わせ：大阪教区栄える会事務局
TEL 06-6763-5436 FAX 06-6761-9217

ホームページ <http://www.sakaerukai.com>
電子メール info-sk@sakaerukai.com

感謝はするものではなく、あふれてくるもの！
入江富美子著「1/4の奇跡」より

“不死不滅のいのち”を伝えよう！

生長の家栄える会名誉会長 神谷 光徳

ご存じのように、生長の家では立教当初から、「吾等は生命の法則を無限生長の道なりと信じ個人に宿る生命も不死なりと信ず」と宣言し、人類光明化運動を展開しています。

この“不死不滅のいのち”について、谷口清超大聖師はご著書『伸びゆく日々の言葉』に、次のようにお書きくださっています。

春が去り、夏が来り、そして秋になる。季節は限りなく変化するが、それは一定の周期をもって繰返される。宇宙全体に共通して見られる現象だが、果して人間の一生にも繰返しがあり、生死の周期は何回も訪れると見るのが順当である。毎年のように桜が咲き、そして散り、来年も咲く。その桜の花に劣るようなことが、人間に於いてあるはずがない。人は一生を終っても、さらに又地上かどこかに生れ変わって出現する。その肉体は変化しても、“霊”なる人格は、不死不滅である。この本体を「神性」と言い「仏性」と称するのだ。(同書・23頁)

わが国の現状を見ると、自殺者が13年連続で3万人を超えるといわれています。他国と比較しても豊かな日本で、これだけの方々が尊い命を絶っていることは、大きな問題であると言わざるを得ません。

今こそ声を大にして、幾度も生まれ変わり、様々な経験を通して魂を向上させながら無限生長の道を歩む“不死不滅のいのち”が私たちの本体であることを、さらにはそのいのちが「無限が有限に表現され、今の一点に全てが集約される。このような『新生』の一日を、心から感謝して、人と喜びを共にしよう」(前掲書・22頁)とお示しいただいているように、感謝と喜びを共に分かち合いながら、一日一日を精一杯生きていくことの大切さを伝えていく時ではないか、と強く思わせていただいた次第です。

『七宝の塔三月号より』

まず映画の内容から伺います。「1/4の奇跡」という題名が面白いというか興味をひくようなものなのですが、どういう意味なんですか？

入江● 1/4というのは、昔マラリアがアフリカで大発生して、マラリアで人類が滅亡してしまうんじゃないかとなった時に、マラリアにかからない人がいるってことがわかったんです。それで科学者たちが調査をしたところ、ふつうの人達の赤血球がドーナツ型をしているのに対してマラリアにかからない人達の赤血球は鎌型をした鎌状赤血球が含まれていることがわかったんです。で、遺伝子というのは二つのセットになっていて、鎌状と鎌状の組み合わせの人が1/4、鎌状と正常、正常と鎌状、正常と正常という1/4ずつのグループに分かれることがわかったんです。そして鎌状と鎌状の組み合わせの人には病気があって、特殊な貧血症という障害をもっているんです。でも鎌状と正常の赤血球をもっている2/4の人は鎌状の遺伝子をもちながら病気はないんです。そうするとマラリアにかかった時に、正常赤血球の人は鎌状赤血球がないので亡くなってしまうんです。

で、残された3/4の人達のうち、2/4の鎌状と正常赤血球を持ってる人達が生き延びて、また人類をふやしていつくれるんですけど、でもその人達が生まれるためには1/4の障害をもってる人達がいてくれる必要がある。ということで、障害のある人達がいなかったら、人類は生き残っていけないということが科学的にわかったんです。

そのことを、雪絵ちゃんという多発性硬化症という難病の女の子に山元加津子さんが話したら、みんなが違っていてみんなが大事だということと、病気や障害も大事だということを世界中の人が知っている世の中にしてって言って亡くなったんです。

その話を聞いたときに、私は映画を通してみんなが大事な存在なんだという雪絵ちゃんの思いを伝えたいと思ったので、題名に使ったんです。

映画「1/4の奇跡」監督の入江富美子さんインタビューより

その後の内容につきましては、ご講演をお聞き下さい。乞うご期待を！